

○委員長（山口 勝彦）

- ・ 開会宣告
- ・ 議題の確認

1 調査事件

- (1) 函館駅前東地区市街地再開発事業における公共施設の整備および公共施設整備に伴う統廃合施設等の考え方について

○委員長（山口 勝彦）

- ・ 議題宣告
- ・ 本件については、2月27日付で参考資料が配付されているので、説明を受けるため経済部に出席を求めたいと思うが、よろしいか。（異議なし）
- ・ それでは、理事者の入室を求める。

（経済部 入室）

○委員長（山口 勝彦）

- ・ それでは、資料の説明をお願いします。

○経済部長（氣田 聖大）

- ・ 資料説明：函館駅前東地区市街地再開発事業における公共施設の整備および公共施設整備に伴う統廃合施設等の考え方について（令和7年2月27日 経済部・市民部・子ども未来部調製）

○委員長（山口 勝彦）

- ・ お聞きのとおりである。
- ・ ただいまの説明などについて各委員から御発言あるか。

○斉藤 佐知子委員

- ・ いろいろな団体からしっかりと声を聞いているということで、私もこのWebアンケートの概要を見せていただいた。今回このWebアンケートは20代以下の若い方が多く答えている。さらに各年代別の細かい意見も読ませていただいた。本当に様々な意見があるんだなと改めて思った。市民を中心にしたほうがいいのか、観光客を中心にしたほうがいいのか、eスポーツを頑張ったほうがいいのか、本当に様々と改めて思った。そういう中で、私たちも含めて市民の意見を100%聞いた施設というのは無理なんだなと、そういうことをすごく思った。
- ・ 経済部がいろいろ考えて、基本的な方向性というところに4点挙げられているが、2点目の市民利用に重点を置いて、さらに観光客やビジネス客も立ち寄るようなということで、そこは私もすごくいいと思っている。観光客が立ち寄ってくれるのももちろん嬉しいが、観光客は増えたり減ったりするものなのでそういう方々だけを対象にというよりは、やっぱり函館市民の利用にしっかりと重点を置くというのは、私はとても大事だと思っている。そういう中で、この基本となる機能というの、市民活動あるいは情報発信ができたり、そういうことも私は大変いいと思っている。
- ・ 今後のスケジュールだが、右下に小さい字で書いてあるけれども、公共施設の整備事業はこうい

う計画でやっていきたいと言うものの、組合の再開発事業の大きな箱ができない限りは公共施設を中に造っていくのは難しいというか、まず先に大きな箱を造らなければいけないと思うが、その辺の連携というか、都市建設部は定期的に会議を開いたりしているという話もしていたが、今後の連携というかその辺はどう考えているのかお聞きしたいと思う。

○経済部商業振興課長（高橋 紀子）

- ・ 組合とは月に2回ほど連絡会議を開催しているが、都市建設部と経済部とで参加しており、いつも連携して情報共有をしている。組合のほうからも公共施設の整備の検討を進めているということで進捗状況を聞かれるし、それによってどんな施設になるのかということも興味を持って、それを基にどういう商業施設を入れたらいいかという検討の参考にされるということで、その辺も連携して現在協議しながら進めているところなので、それぞれがばらばらにということではなく連携しながら進めているという状況である。

○斉藤 佐知子委員

- ・ 分かった。しっかり連携して進めていっていただきたいと思う。
- ・ アンケートのいろいろな意見の中でも、市民が椅子とか置いてくつろぐ場所も必要だと書いている方もいた。今日は公共施設整備のお話だが、もちろん函館市としては補助金というかお金を出すけど、さらに函館市は市民広場という共通の部分にも確かお金を出していく方向だと聞いているが、市民がくつろいだり椅子を置いたり、そういうのは例えば今後、市民広場のそういうところの話合いの中で解決していけたり、その部分は何か考えがあれば教えていただきたいと思う。

○経済部商業振興課長（高橋 紀子）

- ・ まだ市民広場については、どのような形で活用するのか今後検討する部分ではあるが、今現在話し合いをする中では、やはりそこでイベントを行ったり、でも毎日イベントができるわけではないので、そこに観光客でも市民でも少し休憩するだとかというようなスペースとしてやはり使っていたかかないと、そこがにぎわわないという話になるので、そういった方向で進めることができればなと思っています。

○斉藤 佐知子委員

- ・ 私もそのように進めていっていただければと思っています。
- ・ 今回女性センターが老朽化ということもあって、この公共施設の中に入るということだ。人口が減っている。そういう中で老朽化が著しい。一番望ましいのはそこに新しく建て替えることだと思うが現実それは大変難しいと思うので、できるだけフレキシブルというかその建物の中で間仕切りなど多少自由に移動ができたり、そういうふうにして利用できると考えてよろしいか聞きたい。

○経済部商業振興課長（高橋 紀子）

- ・ 斉藤委員御指摘のとおり、イメージとするとフレキシブルフロアということで、多機能に自由に、時代の流れによって何が流行するのか、どこに注力して市が政策を進めていくのかによって様々動きができるような形にしたいと思っているので、今やはりジェンダーギャップの解消だとかそういったことも市として——それは市民部の話ではあるが——進めていかなければいけないという中で、やはりその情報発信・啓発というのがいろいろな方が自由に集うというか来るというところで、自然に発信するというか自然にそれが浸透していくような環境になり得るのではないかと考えている

ので、そういうようなところも、経済部ではないけれども市民部と協力しながらどういった機能と
いうかどういふ見せ方、どういふ発信の方法がいいのかというのも考えながら、機能面も考えてい
きたいと考えている。

○斉藤 佐知子委員

- ・ 分かった。
- ・ 若い学生さんたちは学習するスペースだとかそういうところが欲しいと言っているけれども、私
はやっぱり若い方もそうだが、函館市の人口の割合を見ても高齢の方が多い。若い人だけが利用す
るのではなくて、どの年代の方も利用できる。市民のどの年代も利用できる、まさに多機能という
形で考えていただきたいというのと、あとは本当に様々な意見がある中で、先ほど言ったように
100%全部みんなが満足するものはできない。そういう中でやっぱり最大公約数で多くの方がしっ
かりと利用できる、集えるところ、そういう形で進めていただければと思っている。

○池亀 睦子委員

- ・ 説明よく分かった。やっぱりしっかり聞いてよかったなと思った。
- ・ まず公共フロアに関しての25億円。最終確認だが、国の補助を入れたとして最終的に持ち出しは
幾らになるのか。

○経済部商業振興課長（高橋 紀子）

- ・ 25億円になると国の補助が2分の1で考えるが、それ以外に市として市民広場の分で3.3億円と今
最大で考えている。なので25億円と3.3億円というのがかかってくると思うが、国の補助で2分の
1になるので、おおよそ15億円ぐらい、十二、三億円だろうか。国の補助が入るのが25億円のほうに
なるので、その部分で2分の1。単純に言うと12.5億円、それプラス市民広場と考えている。

○池亀 睦子委員

- ・ 市民広場は国の補助は何もないのか。

○経済部商業振興課長（高橋 紀子）

- ・ 対象となっているのは市の公共施設を整備するにあたっての補助金になるので、市民広場は別
なる。

○池亀 睦子委員

- ・ 分かった。いろいろ財務部から様々お金の流れを聞いているので、これだけ出せるのかなと心配
する。北見市のいろいろな状況もあって、我々もお金に関してはしっかりしなければという思いも
あるから、まずこれを聞いた。
- ・ ただ、物価高騰でいろいろな物がとにかく値上がりしているよね。積算して市の持ち出しは大体
これぐらいという金額は今出している。今後増えていくことは予想されるのだろうか。経済部とし
てどうか。

○経済部商業振興課長（高橋 紀子）

- ・ 物価高騰は続いているので想定される場所ではあるが、補助金を活用するだとか、あとはどう
いう設えというか内装にするのか。削減できるところは創意工夫ができると思うので、なるべくこ
の財源内で収まるような工夫というのはしていきたいと考えている。

○池亀 睦子委員

- ・ 分かった。社会の状況はあるけれども、もちろん担当部局として、なるべく計画通りの金額でいけるようにというふうになると思う。
- ・ 斉藤委員からもあったが、現在女性センターが行っている様々な事業があるが、それに対しては説明会とかも含めてどういう手当てをするのか。かなりいろいろな方が利用している。私も月に一度はいろいろな活動しに必ず行くので。そういうことに関して、全部持ってくるということにもならないだろうから、そういう今現在行っている活動の内容に対してどういう手当てをされるのか。

○経済部商業振興課長（高橋 紀子）

- ・ 市民部のほうで関係団体だとか利用者の声を聞いてそれを吸い上げる形になると思うが、経済部とすれば市民部と協議をして、男女共同参画を推進するにあたって必要となるのは何かということも協議しながら、その中で必要な機能を盛り込んでいくことに今後まずなると思う。なので言ってしまうと今後の協議の中で進める。例えばだが、相談する機能が必要だ、プライバシーの配慮が必要だというお話があれば、当然その機能は盛り込むような形でプロポーザルのときの仕様書になるべく入れ込んでいくとか、そういったような協議は今後進めていくことになる。

○池亀 睦子委員

- ・ 分かった。所管は市民部だが、一応フロアの使い方という総合的な考え方を今確認させていた。具体的なことはやはり今課長が御答弁されたように、これからどういうふうにしていくかということになるかと思う。
- ・ 児童館のことは子供たちの事を考えたらやっぱりあの地域に近いほうがいいわけなので、御説明あったとおりで全然問題ないと思った。
- ・ 三菱地所の開発事業が私は好きで、いろいろいつも見てすごいなと。その町々、またくつろぎだとかいろいろなことを展開している。だから、できれば市民広場とかには道南杉だとかそういう木材を利用してくつろげる、斉藤委員からもあったが、市民がそこへ行ってくつろげるというのは第一である。ただ、クルーズ船から降りてきて函館駅前を散策したときに、今の状況ではかなり厳しいものがあるのですね。駅前もそうだけどくつろげる場所というのは、やっぱりそのまちの顔になると思う。だから本当にどうぞ、ウェルカムというおもてなしの状況をしっかり私は今から言っておかないと、ある程度できてからでは駄目だと思うので。本当に人が癒される、出会いがある、またくつろぎがあるという三菱地所のああいう考え方とかを大いに吸収していただいて、参考にしながら駅前づくりに取り組んでいただきたいなというそういう思いが非常にあるので、よろしく願いしたいと思う。

○荒木 明美委員

- ・ 2点ほど質問というよりは要望に近い形になると思うが、8ページ目の今後の対応というところで、道南杉などの地域産材の活用ということも出ているが、例えば市立函館病院のようにエネルギーをコージェネレーションでやっていたりとか、そういった工夫みたいなこともしていただきたい。なるべく負荷のかからない、そして経費もかからないような、発電も一緒にできるというようなことも今後検討してほしいと思っているが、いかがか。

○経済部長（氣田 聖大）

- ・ 整備負担の軽減に関わることだと思うが先ほどの道南杉もそうだし、今お話あったエネルギーの

関係も、今の時代そういったものをプラスアルファで整備をするということは、ちょっとメニューがまだ確認できてないけれども、何かしら国の補助とかいろいろな支援メニューがある可能性はあるのかなと思っている。

- ・ また先ほどの25億円の整備の中で、例えば道南杉を入れるとなれば、今は国からの森林環境譲与税もある。これは、頂いた譲与税の中で道南杉の木材を使ったハード整備とかそういったものに活用できると認識しているので、なるべくそういうところも含めて活用できるように、さらには今後の課題でも御説明したが、省エネルギーも当然今の時代はそうだと思う。その支援メニューがあるかどうかも含めて確認して、活用できるのであればそれは積極的に活用してまいりたいと考えている。

○荒木 明美委員

- ・ もう1点が委託先のことになるが、今回基本となる機能が4機能出ていて、かつ、ふらっとDaimonの機能と考えると、当初は高齢者の交流、憩いの場が、どの世代の方でもというふうに意味合いも広がった場になったと思うけれど、それにプラスして女性センターとなると男女共同参画の拠点となるので、例えば男女共同参画に関わる地域課題の解決だとか相談業務だとか調査業務とか、いろいろある程度経験とか専門性も必要なものが出てきている上に、観光客でインバウンドが来るとか、本当にいろいろな機能が求められている。例えば図書館とかアリーナとちょっと違って、箱物ができた後の委託されるソフトをうまく回していくというのがすごく大事だなと思っていて、もしかしたらその委託先が1社じゃなくてジョイントで組んで、1社なんだけれどその中に男女共同参画に強い人たち、何に強い人たちみたいな部分が必要ではないかなと思うくらいすごく多機能だなと思った。その辺はこれからの話だと思うが、今どういうふうに考えているか御教示願う。

○経済部商業振興課長（高橋 紀子）

- ・ 運用は直営ではないとは思いますが、指定管理者なのかどういう形になるのかというのは今後にはなるが、例えば指定管理者だと1社ではなく共同事業体ということでコンソーシアムを組んで、大きな施設になればなるほど他都市もコンソーシアムを組んで役割分担をしながら一体となって運営するということが多いので、そのようなイメージをしていて、例えばコンソーシアムで共同事業体で組むときに、今女性センターの運営を受託しているところもコンソーシアムで入るということも可能かと思うし、あとはそこで働いていた方が従業員のような形で入って、専門家とか入っていただくということも可能だとは思いますが、ただ募集するときにはプロポーザルで募集することになるので、決まった事業者さんがどのような運営をするかは分からないが、イメージとしてはそういうことも可能ではないかと思っている。

○荒木 明美委員

- ・ 分かったので、終わる。

○板倉 一幸委員

- ・ いろいろ御説明いただいたし、予算特別委員会のときにも公共施設の調査費のところでも少しやりとりしたので、私の申し上げたいことは分かっていたのではないだろうかと思うが、まず初めに、前のこの公共施設の整備の議題だとかあるいは今回の考え方の案、こういったものにこの施

設のコンセプトというか、どういう施設にするのかという考え方が出されているが、私自身は駅前・大門地区の施設——公共施設も含めて全ての施設が一言で言えば楽しい施設であるべきだと思っている。その考えがやっぱりなければ、施設を造っても、観光客の皆さんは駅から降りて施設に来るといことはあっても、もっと遠い市内の、近辺の住民でない皆さんがそこに行こうという気持ちになっていただくということが、大変重要なことだと私は思っている。そういう意味では、市としての考え方は確かにこれでまとまったということになるわけだが、経済部としてあの地域のこれまで活性化にずっと業務をされてきたわけだから、この公共施設というかこういうものがどういうコンセプトであったほうがいいのか、経済部の立場としてどう考えているのか、その辺のところを聞かせていただきたい。

○経済部長（氣田 聖大）

- ・ 特段変わって違うということではなくて資料で説明させていただいたとおり、この駅前・大門地区の特性を生かした市民も観光客も誰もが自由に集い交流する多機能型施設ということで、まずここに皆さん来てほしいと私たちは思っている。
- ・ まずは市民をメインにしつつ、例えば午前中にはシニア世代、高齢者、午後からは高校生の若い人たち、夜はイベントがあればそういう連携をしながらということで、とにかく一日中たくさんの人に来てほしい。その中で観光客とかの連携ができればなというふうに思っていて、そうすることにより周辺の商業施設あるいは飲食店、こういったところにも、例えば午前中シニア世代の方々が体を動かしあるいはくつろいだ後にお昼ご飯を食べるとか、そういったことも可能であるならば、この地域が一番盛り上がり、にぎわいを創出したいというのは、これは課題だと捉えているので、そういう意味ではこの公共施設をしっかりと整備することでまずは人が来てほしいと。それはハード整備だけではなくてソフトも含めてやっていきたいと我々は思っている。

○板倉 一幸委員

- ・ 今日はこのWebアンケートについても説明いただいた。これでは確かに駅前・大門地区のあの場所に公共施設を造るとして何がいいかというようなことに対する回答が出ているけれども、例えば地方創生のアンケートだとかそれからウェルビーイングのアンケートだとか、ああいうアンケートが一番函館に足りないと言われてるのは、買い物や遊び場だとかの施設あるいは機能、こういうことがやっぱり足りない。こういうふうに全体のアンケートでは各年代ともやっぱりそういうような傾向があるわけだけれども、そういうようなことをあの施設というかあの場所に持つてくるという考え方も、何するかはちょっとまだだろうが、そういうようなことも含めてこれから検討されていくのか。

○経済部長（氣田 聖大）

- ・ 先ほどのいろいろなアンケート本当に様々な意見がある。できるならば、お金とかスペースの問題とかなければ全部叶えてあげたいというのが正直なところであるけれども、まず買い物とか遊び場ということになれば、その公共施設の2フロア今2,000平米を予定しているが、スペース的にもなかなかそれだけというふうにはならないのかなと。一体として再開発事業の中で1階のほうに商業施設が入る予定である。中身はまだ決まってないけれども、その中で一番良いベストな形ということで、私たちの公共施設を資料でも御説明したが、その時代に何が流行ってるかというのは、これ

からやっぱり変わってくるということを想定して、例えば買い物というところで公共施設を入居させるわけにはいかないけれども、例えば遊びという部分で、先程板倉委員がおっしゃってた楽しい施設ということは当然そうだと思う。ソフト面で、どういった施設であれば楽しく来ていただけるかということも含めてこれから検討を深めていくということで、最後はやっぱり繰り返しになるが、にぎわい、人がたくさん来てくれる施設にしてみたいと考えている。

○板倉 一幸委員

- ・ 棒二森屋跡地における公共施設整備検討会議、これも2回開かれたと書かれているが、その中で氣田部長も、この施設にたくさんの方が来ることが期待されるということで、観光スポットの出発点にもしたいということだとか、あるいはモニターを付けて函館山の混雑状況が分かるとか、あるいは縄文の機運が高まっていることを受けて将来的にはそういった観光案内や出発点として誘導するというような考えも、この時点での話かもしれないが、そういうことを言われている。ただ、スペースの関係もあるということも言われているわけだが、そういったようなことも当然考えながらやっていくということになるだろうが、先ほど申し上げたが、ちょっと考えが古いのかもしれないが、駅前・大門地区の歴史性あるいは特性——今の特性もあるだろうし、これまでの函館にとっての駅前・大門地区の特性というのももちろんあるわけだから、そういったものも十分反映した考えに基づいていただきたいと思う。
- ・ プロポーザルでやられるわけだが、今あそこの市街地再開発事業組合に関わっては、西松建設さんを代表にした特定業務代行者がいて、全体の調整ももちろんそこでされるのだろうが、そことの関係というか、公共施設に関わってその辺のところは何かあるのか。先方側からこういうようなことをしてほしいとかあるいはこういう施設にしてほしいとか、そういう全体の中の業務を代行されている企業や事業体からこの公共施設についての機能の在り方とか、そういうことについて何かあるのか。

○経済部商業振興課長（高橋 紀子）

- ・ 西松建設ではなく、組合と連携して行っている。組合側からは、こういう公共施設を入れてほしいというような要望ではなく、とにかく市として考えて検討してどういう施設を入れるかを決められるということで、それは尊重していただいているので、どちらかというところを早く聞いて、それに見合うようなとか、そのコンセプトにも合致してくるような全体の施設造りをしなくてはいけないということでおっしゃっている。
- ・ 造りとする、例えば水族館を入れるという方向性になったら、床をどうしなければいけないとか、躯体、本体に大きく関わってくるということであれば当然早く教えてほしいとかそういう話はあるけれども、内容についてこういう施設にしてほしいとかそういう要望というか、そういう話にはなっていない。

○板倉 一幸委員

- ・ 駅前東地区市街地再開発組合のホームページを見てみると、この特定業務代行者について今年の1月の組合設立総会で決まったということで、今申し上げたように何社かあるわけだが、代表が西松さんである。この共同企業体には知識・技術力・企画力を遺憾なく発揮して、市街地再開発事業を支援していただくよう切に願うというようなことが書かれている。実際にどういう施設を造って

いくつかはプロポーザルだから民間のそういったノウハウが生かされる、そこで提供されることになると思うが、そのところはやっぱりどこがいいとか、私とその業務代行者がいいとか悪いということではなくて、そこで持つノウハウだとかそこに決めた理由も当然あるだろうから、その辺ともしっかり連携をとることもこの施設をこの後しっかり機能させていく、運営していくというか、そういうためには必要ではないだろうかと思うが、その辺のところについてはどうか。（「委員会になじまない」の声あり）それでは皆さんもそう言われているから止める。

- ・ 女性センターの機能を持ってくると案ではなっているが、基本的に女性センターが老朽化したことと、駅前・大門地区にどういう公共施設を持ってくると、女性センターは重要だから必ず男女共同参画の機能というのどこかが果たさなければならぬわけだが、女性センターという建物が老朽化をしたからということと、駅前の公共施設に何を入れるかあるいはどういう施設にするかというのは別問題だと思っているが、女性センターをこの駅前の公共施設に入れようと考えたことは何か。

○経済部長（氣田 聖大）

- ・ 市長が替わられて、以前の統廃合がありきではないということから、今回は一からというか、にぎわいのある施設にするためにどうするかというところをまず考えてきた。それと同時に女性センターが年間直近で約1万2,000人の方が利用されていると伺っている。またふらっとD a i m o nも以前は年間5万人から6万人ということで、合わせると7万人、8万人ぐらい利用されていたということで、そうなるとこちらの新たな施設をその方々が利用されるということになれば、資料の4ページにも記載しているが、亀田交流プラザとかGスクエアでも年間18万人、15万人ぐらい使われているということで、あとは今言ったこれまでの女性センターやふらっとD a i m o nの利用されている人数七、八万人プラスアルファさらなる市民の方、観光客、ビジネス客となると、それに近いあるいはそれを上回るぐらいの利用者も期待はしているし、そうなってほしいと思っている。
- ・ それと併せて利用者が公共施設の中で女性センター、今度は男女共同参画の拠点として利用される方がどんどん増えることによって、周辺の飲食店、商業施設もにぎわうという中で、その中で女性センターがやっぱり老朽化、今御利用されている方も利便性・効率性・快適性などで多少御不便はかかっているのかなと認識している。そういういろいろ課題がある中で、ぜひ新しい施設に来ていただいて、にぎわいの創出を一緒になってやっていきたいなという思いがあるのに加えて、女性の活躍やジェンダーギャップの解消ということでこれから力強く進めていく中で、そういうところで今回この施設でその活動や発信をしていければなど、そういう考えでぜひその機能の移転をしていただければと考えている。

○板倉 一幸委員

- ・ 先ほど荒木委員からもあったが、いくつかの基本となる機能があつて、その他にふらっとD a i m o nだとかあるいは観光客のためのある程度の情報発信だとかそういったようなことも含めていくと、複合的多機能を目指しているならば、いろいろな機能をそこに入れなければいけないが、私自身は亀田交流プラザも決して成功した施設ではないと思っている。私はあそこで昭和48年から7年ぐらい職員で勤めていたが、もともとあった福祉センターの使い勝手は実はあまりよくないし、新たにそういった交流の場といういろいろな催し物ができるような場がほしいということ、ず

っと周辺地域の方々も要望してきた結果としてあの施設ができたが、あれにやっぱり老人福祉センターや児童館とかの機能をいろいろ付けたけれども、その機能がそれぞれではうまくやっているのかもしれないが、一つの施設としてその機能の連携が十分にとれて果たされているのかということでもなく、一方では利用客がたくさんいると言っていたけれども、確かに日々会議室は埋まっているような状態だから、そういう部屋が求められているのは事実だと思うが、今回の施設はそういう施設ではないわけだね。会議室をつくってそこに人が来てもらってそこで会合や集会をやったり、そういうことに使っていただくための施設では多分ないだろうと思うが、その辺はうまくやっていかなければ、機能をたくさん詰め込んだけれども結局はその施設のコンセプトがあまりよく分からないとか、市民が来てそこで過ごすだけの施設になってしまうという疑念というか不安ということがある。そこをやっぱりちゃんとしなければならぬと私は思っているがそれはどうか。

○経済部長（氣田 聖大）

- ・ これからの整備もちろんきちっとやっていきたいし、しっかりやっていきたいという思いは変わっていない。たしかに不安という部分では、今言葉で文字でこう表現しているができれば早くパスというイメージ図を見せたいと思っているけれども、それはさておき、まず4つ機能を挙げさせていただいた。これから何ができるかということも更に深掘りをして、ぜひ皆さんからも意見をいただいて、その中でやっぱり今度課題になるのは運用面だと思っている。しっかりその辺が、先ほどちょっと事例で午前中がシニア世代とか午後は若い人とか観光客とか、その辺をどう運用していくか、多分様々な課題がまた出てくると思うので、この辺もしっかり深掘りして検討して皆様とも議論しながら進めてまいりたいと考えている。

○板倉 一幸委員

- ・ これからも議論をしていくことができると思う。冒頭申し上げたが、駅前・大門地区の場所の特性をしっかり踏まえて、私は楽しい施設にしてほしいと思う。全体を楽しい施設にしてその中にある公共施設がそれを上手く発揮できるような施設にしてほしいと思っているから、ぜひお願いしておきたいと思う。

○芝井 穰委員

- ・ 一点だけ質問させていただきたい。事前に資料を見させてもらった中で、7ページの8の公共施設整備の基本的な考え方が核になるのかな、そのように進めてもらえればなという立場から今日は質問しないつもりでいたが、先ほどの池亀委員の財政状況、今後の財政状況の見通しでも収支不足が想定される。それに例えば資材費とか労務単価、様々これは上がるものだと考えておかなければいけないと思っていた。今25億円の2分の1だが、例えば26億円になっても27億円になってもその2分の1と。それはよろしいが、補助金を差し引いた一般財源相当額にどのような地方債が充てられるのかと、それからそれは交付税措置があるのか、この2点を前の財政課長という立場から部長に聞きたいと思う。よろしく願います。

○経済部長（氣田 聖大）

- ・ まずは私たちは今25億円想定している。これは床の取得費も入っている。この25億円というのは、過去のGスクエアの床の取得と向かいのキラリスの取得の価格を参考に床の取得で10億円ちょっと見込んでいる中で、内装は残りの15億円弱になると思うが、10億円から15億円の間にいると思う。

これはある程度積み上げて積算しているものではなくて、余裕といったらちょっとおかしいが、見込まれる額として25億円を見込んでいる。なので、今後の資材高騰とかという影響ももしかしたら飲み込めるかもしれないし、当然そういうところは先ほどお話したように財源の部分も活用できるものは活用したいと思っている。

- ・ 現時点で25億円ベースの半分が国の補助金が入る。残り半分は芝井委員からお話のあった地方債があって、これは12.5億円を地方債を活用する。かつ地方債も交付税措置が一部あると思うので、有利な借金というか、活用するのは当然だと思っている。また残りの12.5億円を地方債を活用した場合、返済は今大体20年ぐらいだと思う。利子はちょっと別としても12.5億円を20年間でざっとだが返すとなったときに、6千万円から7千万円ぐらいを1年間で返していくと、20年間この6千万円、7千万円が今の将来的な財政負担で負荷がかかるのかかからないのか、当然新たなものだから、借金はどんどん返していくことになるし、新たな例えば日乃出清掃工場とか多分かかってくると思われるけど、この6千万円、7千万円が地域のにぎわいの創出のためにこの負担ができるかできないかということだと思うので、私たち経済部とすればふるさと納税も頑張っていくし、そういったことで縮減を図りつつ、芝井委員からお話のあった地方債の部分も当然有利なものを活用して、なるべく実質的な負担の縮減を図っていきたいと考えている。

○芝井 穰委員

- ・ そこまで詳しく説明してもらえとは思ってなかった。やっぱり一般財源が不足してくるものだから、25億円プラス3億数千万円というのは結構大きいものなんでね。だから交付税措置がない起債だと、借金だけを公債費として義務的に払うしかない。これを避けるためにはやっぱり組立ての段階で、部長から説明いただいた、少しでも交付税措置の高い起債のメニューを探しながらぶつけていくことは非常に大事なことなので、私が望んだ以上の説明をしていただいた。感謝する。

○紺谷 克孝委員

- ・ 先ほどの議論の中から女性センターの問題がいろいろ出ていたが、基本となる機能の中に4つあったけどなかなか女性センターの機能としてはこの4つの中に当てはまらないものもあるのではないかと考えられる。それでそういう機能を組み込むということになると、やはりスペース的にいろいろ保障しなければ駄目な側面が出てくるのではないと思う。女性センターの中で共通して交流や市民活動というところで重複するところももちろんあると思うが、そうでない分野もあるのではないかと。それはそれで新たに考えてやるのかどうかということについて検討する必要があるのではないかとということで、見解だけは述べておきたいと思う。
- ・ プロポーザルの関係で、準備・選定から基本設計までプロポーザルを行うとなっているが、私はあまり詳しく知らないが、基本計画と基本設計は1社で全部やってもらうのか、あるいは基本計画が2社ぐらいでやって基本設計までやってもらうのかどうかとか、そういうのは何か決まっているのか。

○経済部商業振興課長（高橋 紀子）

- ・ 基本計画はプロポーザルで募集する際に、例えばコンソーシアムというか共同事業体で1社として申請することもできるし、後は普通に1社として申請することもできるので、2社に頼む、それぞれ分けて頼むということではなく、基本的には入り口としては契約としては一つ、そこが共同事

業体という形で申請していただく可能性はあるけれども、2社とか3社とかに分けてお願いをするということではない。

○紺谷 克孝委員

- ・ そういうことでなくて、例えば基本設計を選定したときに1社に選定するのか。例えば基本計画を2社に作ってもらって2社が設計までやるのか、最終的にそこで選考するのかどうか。最初から1社に絞ってやるのか。

○経済部商業振興課長（高橋 紀子）

- ・ プロポーザルを行うことになっており、プロポーザルで審査するに当たって提案をする事業者さんは複数あると考えている。その中で基本計画を策定する候補者をまずプロポーザルで選定する。その選定された事業者さんが基本計画案を作る。それはあくまでも案の段階であってそれを市が政策決定して初めて完成という形になる。なので、基本計画を策定する、基本設計を策定するというのは1社になる。

○紺谷 克孝委員

- ・ 分かった。そうすると今パブコメをやっていると思うが、基本計画とか基本設計ができた段階で市民の声を聞くとかそういう手法は行うのか。

○経済部商業振興課長（高橋 紀子）

- ・ 基本計画案ができたなら政策決定をまずして、その後にパブリックコメントを行う予定になる。その時点で初めて皆様にイメージ図のようなもの、こんな形のイメージ図というのをお見せしながらパブリックコメントを行う予定でいる。

○紺谷 克孝委員

- ・ 今まで非常に丁寧にやってこられたので、計画や設計の段階でも市民に問うということをぜひお願いしたいと思う。
- ・ 先ほど板倉委員も言っていた検討会議の中で、例えば市民広場と公共施設の一体化なんていうのも複数の方から意見出していたよね。市民広場と公共施設の一体化で階段造ったらどうだとか、そこにみんな座って見えるから非常にいいのではないかとかというようなのも複数の人から意見が出ていた。従ってそういう構造上の問題が出てきた場合、プロポーザルするとき一般的に抽象的な基本計画となる機能によって少し設計してほしいというだけではなくて、構造上の問題もプロポーザルの条件にしてやるということもありうるのか。

○経済部商業振興課長（高橋 紀子）

- ・ あくまでも公共施設の2フロアについてのプロポーザル、基本設計・基本計画になる。紺谷委員からお話しがあつたのは、市民広場からつながる公共施設につながる階段ということになると、公共施設の一部ということではなく共用だとかそういう本体に関わる部分になるので、それは市としてこのプロポーザルで決定するというのではなく、全体の中で決定する部分になる。

○紺谷 克孝委員

- ・ なかなか難しいものだね。分かった。
- ・ 先ほど言ったが、非常に丁寧にやってこられたということで評価したいと思うが、今後プロポーザルとか基本計画をつくるという段階で新たな問題が出てくると。例えばこの検討会議の中で言わ

れていたが、キッチン、調理室がもうたくさん市内にあるので機能としてどうなのかという意見も出ていて、今亀田交流プラザとか、それからシエスタの機能は私も利用したことがあるけど、非常に使いづらくて面積も狭くて、それで以前にあった福祉センターのキッチンのほうがずっといいと。どこの部屋にも全部運ぶことも自由だし、そういうことで、やるならきちんとした、もうきちっとしたものをつくると。やらないならやらないということで、そういう中途半端なものをぜひ避けていただきたいと思う。きめ細かくそういうことも決めていただきたいということを申し述べて終わる。

○委員長（山口 勝彦）

- ・ 他に御発言あるか。（なし）
- ・ 発言を終結する。
- ・ 理事者においては、本日の質問の趣旨を踏まえ、今後の対応を進めていただきたいと思う。
- ・ 理事者は御退室願う。

（経済部 退室）

- ・ その他本件について各委員から何か御発言あるか。（なし）
- ・ 議題終結宣告

2 その他

○委員長（山口 勝彦）

- ・ 2のその他だが、各委員から何か御発言あるか。（なし）
- ・ 散会宣告

午前11時20分散会